



始



貴族院
函
号
冊

昭和二年十月廿二日

○ 山本青龍序寄贈



東京城

仁川 水原 開城



圖全街市城京

州新新總
天奉至

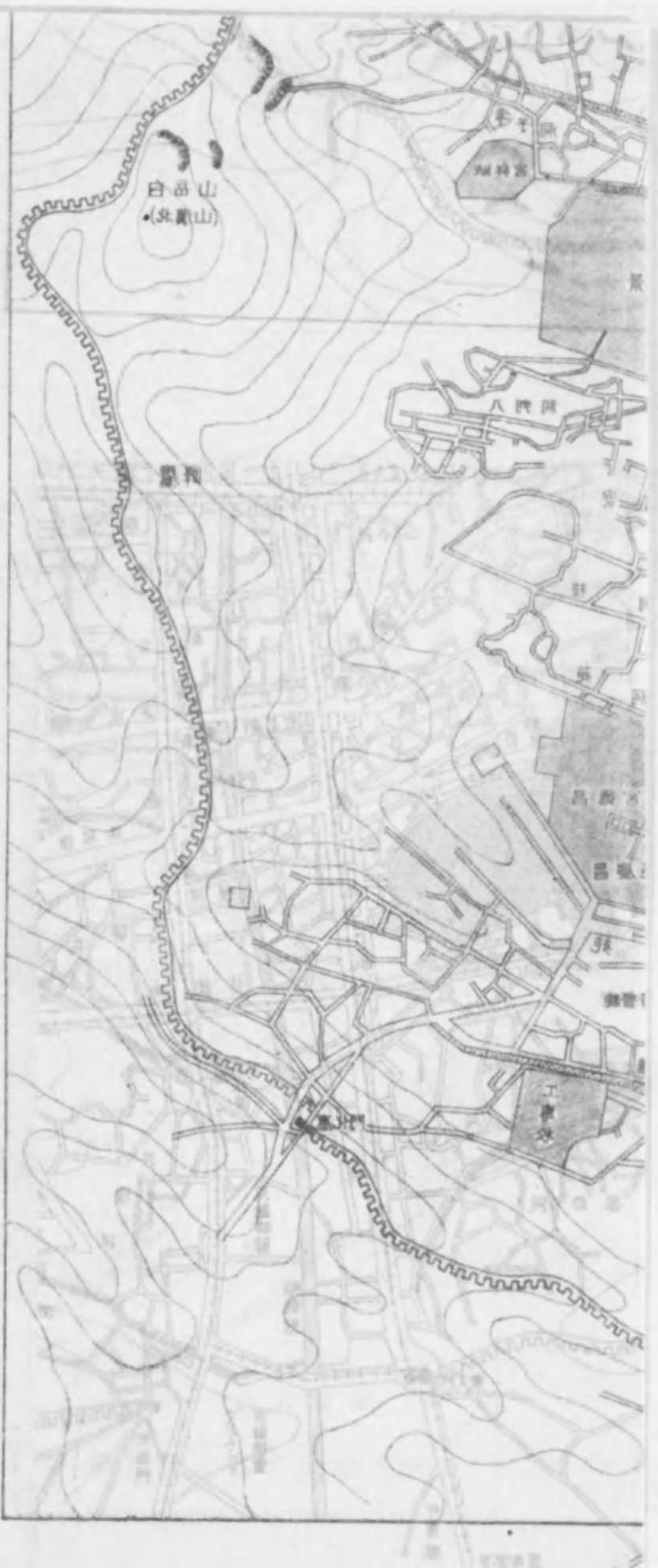


車電內市
乙分千二萬三約尺縮

京城市街全圖



市內電車
縮尺約三萬二千分之一



例言

- 一、都會地の見物に際し、さう云ふ順序で見物しやうか、ミ誰しも迷ふのが普通であります。本書は京城に着いた旅客にその迷ひをなからしめんミするものであります。
- 一、京城郊外及附近の勝地は、本書ミして當然所載すべきものミ思ひ、主ミして日歸りの場所を選び掲げました。
- 一、見物箇所之採擇及説明が簡略に過ぎるは、此小冊子ミして致方ないこミ、御諒恕を願ひます。
- 一、取材に行文に不満の點が多々あるこミ、存じますが、大方の叱正を俟ち完璧を期したいこ思ひます。

京城案内

昔の京城

高句麗朱蒙王の一子温祚は相携へて南へ遷り、温祚は慰禮城に百濟の國を創めた。慰禮城は今の稷山附近（成歡驛から南二里）であることもまた南漢山であることも云はれて居る。温祚から十一代近肖古王の時高句麗の侵略を逆撃して之を退け、都を京城の北漢山郡に徙した。其頃から百濟と高句麗の間は絶えず纏れ、百濟二十世の蓋鹵王の時には高句麗の痛撃を蒙り、百濟は今の公州の慈津に徙都を餘儀なくせられた。此間百濟の京城の地に都すること百二十餘年、是れ京城が王都となつた最初の歴史である。其後高句麗の平原王も亦一時此地に都したことがある。

其後世は新羅に移り高麗と變つた。高麗の中期、肅宗王は京城の木覓山に宮闕を營み南京と稱し

京城

だが、それには面白い挿話が傳えられてゐる。新羅時代の道説に云ふ僧の密記の中に「尋いで王たるものは李氏であつて漢陽に都する」云あるのを王が患ひ、親ら此の南山の地を相し宮を建て、年に一度つゝ巡狩して、植付けた李の樹の若芽を摘み、また龍鳳の畫を埋め、王氣沈壓の呪をした、さいふのである。此當時の宮殿は仁宗王の六年に烏有に歸し、更に又再建したが今は遺つてゐない。朝鮮の太祖李成桂が開城で即位するや、王師無學の説を聽いて奠都の議を決し、先づ大田附近の鷄籠山の麓に奠都し様としたが、參制柳觀の上表に據り漢陽定都の議に翻し、白岳の南、木覓の北に都城を造營した。是れ今日京城に云ふ朝鮮第一の大都會の礎のすへられた始めである。即位の三年十月百官を率ゐて此地に徙り、白岳の南麓に宮闕を營んだ。それが即ち景福宮である。宗廟、宮殿共に翌四年九月に竣工し、十一月には新宮で百政を視ることとなつた。五年正月から城廓の築造に取かゝつた。城壁の高さ二十八尺餘、その周廻は四里二十六町、門を立つこと八つ、皆闕門を開き上には樓閣を構へ、就中南面の崇禮門と東面の興仁門とは結構を宏壯にして城の追手搦手に飾られた。この工事には各道から二十萬に餘る賦役人夫が集つたといふから、當時新王朝の豪勢さが偲

ばれる。城内の地は東西中南北の五署に區ち、更に四十九坊、三百四十洞に分ち、實に堂々たる市街計劃であつた。

李朝の京城に定都以來五百二十餘年、世運は變遷していろ／＼の事件が起つた。其中葉以降は文祿の役、清太祖の來寇、政權の爭奪、朋黨の比周なき相次いで一盛一衰随分紛然たる状態であつた。明治の初年大院君に云ふ怪傑が現はれ半島に勢威を振ふ頃しも、西力東漸の勢は防を決して侵入し内憂外患踵を接して起り、及ぶところは日清、日露の戦役となり、或は李朝の獨立、日韓併合なき顧みれば四五十年此方の京城は多事多難にして宛かも走馬燈を觀るの感がある。

今の京城

京城は北に白岳、南に南山、西に仁王、東北に駱駝の諸山が蟠踞し、連山環擁して天成の城廓を形造つてゐる。城壁は山嶺を縫ひ溪を跨り蜿蜒透進長蛇の如く、漢江の水は城外の東南一帯を繞り山河襟帶の形勝、さすがに李朝五百有餘年の都城だに點頭かれる。

京城は朝鮮總督府の所在地で政治は勿論、軍事、經濟其他の重要な機關は殆んど此地に集つてゐる。官衙公署、學校、銀行、會社其他重要なものは次の如くである。

朝鮮總督府・同通信局・同鐵道局・同專賣局・李王職・中樞院・高等法院・覆審法院・地方法院・朝鮮軍司令部・第二十師團司令部・第四十旅團司令部・京畿道廳・府廳・警察署・憲兵隊司令部・郵便局・刑務所・中央試験所・總督府醫院・總督府圖書館・恩賜授産機業場・商業會議所・商品陳列館等
帝國大學・法學專門學校・高等商業學校・高等工業學校・醫學專門學校・セブランス醫學專門學校・延禧專門學校・師範學校・藥學校其他男女中等學校・實業學校及小學校等
朝鮮銀行・朝鮮殖産銀行・朝鮮商業銀行・漢城銀行・韓一銀行・海東銀行・第一銀行支店・安田銀行支店・山口銀行支店・第十八銀行支店・朝鮮鐵道會社・朝鮮郵船會社・東洋殖産會社支店・三井物産會社支店・鈴木商店支店・三越吳服店支店・共益社・内國通運會社支店・不二興業株式會社・京城株式現物市場・京城電氣會社・朝鮮圖書會社・國際運送會社支店等
京城日報社・朝鮮新聞社・京城日日新聞社・セウルプレス社等

市街の廣さ東西一里三十三町、南北三里十二町、面積一千五十二萬坪(二、二五四方里)市區改正

行はれ、現代的大建築簇々起り、舊朝鮮町の陋穢は全く失せて居る。主要なる街路は南大門、太平通、永樂町、若草町の各大通が南北に通じ、之れに鐘路、黄金町の大道が交叉してゐる。是等の大道はアスハルトで固めた内地の大都市に見る如き立派なもので人車道の間には街路樹の並木が綠蔭を印してゐる。新政以來市街は主として西と南に膨脹し、人家は既に新舊龍山の市街に連續し此方面の城壁は全く撤去され、獨り南大門の高樓が昔の城の内外を知る紀念物となり残つてゐる。内地人の家屋は此南大門内の本町、南大門通を中心として龍山方面へ市の東南部に伸び、朝鮮人の家屋は鐘路を中心として多く北西部に集中し、追かに未だ朝鮮町らしい情趣が漂つてゐる。この外水標橋附近には支那人が多く、又貞洞附近には英、米、露の領事館を初め歐米人の住宅が集つた靜かな地域がある。

市街には電車及自動車、上下水道、電話、電燈、瓦斯等の都市施設、劇場、活動寫眞常設館、寄席等の娛樂機關其他近世都市としての設備悉く整つて居る。人口約三十萬餘、(内地人八萬五千、朝鮮人二十一萬、外國人五千)市況の殷盛なる、朝鮮一の大都市たる名にそむかない。

市内の交通

電車 市内(含龍山)一五錢均一、郊外別に五錢均一

自動車 圓タク市内一圓、貸切三十分四圓、一時間六圓、半日約二十圓、一日約四十圓

郊外へは定期運轉の乗合自動車がある。

人力車 貸切一時間七十錢、半日二圓五〇錢、一日四圓

人力車賃金 (自京城驛)

	乗合自動車	人力車	乗合自動車	人力車
至、朝鮮銀行	二五	三〇	至、朝鮮ホテル前	三〇
至、總督府前	三五	四五	至、商品陳列館前	三五
至、總督府醫院前	七〇	八〇	至、中央試験所前	七五
至、黄金町交叉點	三五	三五	至、光熙門前	六五
至、永樂町交叉點	三五	三五		八〇

朝鮮ホテル(鐵道局直營、長谷川町)、宿泊料金一米式(一泊三食)九圓以上、歐式(室料)三圓以上

旅館

天真樓(南山町)、京城ホテル・巴城館・山本旅館・浦尾旅館・平田旅館(以上本町)、不知火旅館(旭町)、原金旅館(壽町)、御成旅館・笑福旅館・村上旅館・大東旅館(以上南大門外)、旭旅館(永樂町)、備前屋旅館(長谷川町)、二見旅館・三重旅館(以上驛前)、日の本旅館(龍山驛前)、長崎屋旅館(漢江通) 宿泊料金一米泊二食(茶代廢止)七圓一三圓

料理店

千代本・京喜久・千歳・白水・喜代中(以上旭町)、花月(本町)、南山莊(西四軒町)等 (以上日本料理)
 明月館(敦義洞)、食道園(三角町)、國一館(觀水洞) (以上朝鮮料理)
 金谷園(長谷川町)、大觀園(觀水洞)、雅叙園(黄金町)等 (以上支那料理)

市内見物

一日間の市内見物順序

(1) 電車を利用する場合

停車場―(徒歩)↓南大門―(徒歩)↓朝鮮神宮―(徒歩)↓南山公園―(徒歩)↓永樂町―(電車)↓昌德宮昌慶苑(晝食)―(電車)↓バコダ公園―(電車)↓景福宮―(徒歩)↓美術品製作所―(徒歩)↓朝鮮銀行前(夕食後本町夜景)

(2) 自動車を利用する場合

停車場―(自動車)↓南大門―(自動車)↓朝鮮神宮―(自動車)↓南山公園―(自動車)↓商品陳列館―(自動車)↓美術品製作所―(自動車)↓景福宮―(自動車)↓バコダ公園―(自動車)↓昌德宮昌慶苑―(自動車)↓中央試験所―(自動車)↓獎忠壇(獎忠壇から引返し夕食後本町夜景)

京城驛

は朝鮮一の大都會京城府の表玄関、その位置は舊城壁の南大門外、今は市街の中央部に當り、北方に京城の中心市街、南方に龍山の市街を控へ、恰も横へた瓢箪の括りめに位して居る。驛前から電車兩市街に通じ、自動車、馬車、人力車の便備り、市内の交通に事かくこまはない。驛合はルネッサンス式の石材煉瓦併用鐵筋コンクリート建築、表側は二階建、乗降場側は三階建本屋の間口七十七間、總延建坪千七百五十餘坪。中央の大玄関は乗車客の通路、向つて右方の袖



令廳新府省總



南大門の山見り大なる京世街

口は降車客の通路、左方の玄關は特別出入口。二階の右は事務室に、左は食堂に充て、プラットホームへは一階下へ降りるこゝになつて居る。約三ヶ年の星霜ミ、百四十萬圓の經費を要し東洋有数の大驛である。驛を發點ミして北へ京城の市内見物に就く。

南大門の樓閣は數町の先き、南大門通りの中央に聳えてゐる。本名は崇禮門ミ云ふ。附近の堂々たる洋風大建築物の中に獨り五百年の苔蘚を蒸し儼然東洋藝術の精華を示してゐる。門は京城八城門中の一つで東大門ミ共に結構の最も宏壯なるものであるが、東大門より一層技巧精緻年代も稍々古い。文祿の時小西行長は東大門から入城して各々門を固めてゐた、夫れより一日後れ加藤清正は南大門に到着し、小西の兵が既に門を固めて居るのを知り、都入りの先鞭に後れた鬱憤に堪ず、遂に城外に結陣して門に入らなかつたミ云ふ。南大門を潜れば南大門通ミ太平通の大道分る。又右の山手に向ふ大道は

城 京

朝鮮神宮の表參道、舊城壁に沿ふ三百八十一段の石段を昇り詰むれば、當面に高く官幣大社朝鮮神宮の勝男木を拜す。祭神は 天照大神 明治天皇の御二柱、畏くも半島鎮護の主神ミして御靈

を迎え奉つたのである。社前の外苑はもこの漢陽公園、三方開潤展望に宜く、市街の大班を脚下に展べ、遠く清涼里の森や漢江の長流も指呼の間にある。外苑から老松の下に穿たれた裏参道を下れば、道は自然に

南山公園

に出る。途に郷社天満宮あり、その先きに京城神社がある。丘の上に立つ矛の碑は明治二十七八年の戦後居留民の建つた甲午戦勝記念碑、其麓は朝鮮總督府商品陳列館となつてゐる。此邊り一帯翠松古雅の枝を垂れ、春は櫻花、連翹の花影模糊として逍遙の好適地である。わけて總督府商品陳列館の後園は俗に櫻谷と云ひ花期一般に解放されるので、春宵こゝに遊ぶものが多い。本願寺、總督官邸の前を過ぎ山を下る。此附近高臺は、文祿の役増田長盛、大谷義隆が駐陣の跡であるから今に尙倭城臺町の名が傳つて居る。

商品陳列館

は朝鮮總督府殖産局の管する處、主として朝鮮の生産品を陳列し、參考品として内地製品をも出陳してゐる、陳列品に關する質疑應答、生産品に關する調査等の依頼にも應ずる。蓋し最も重寶なる商品紹介並調査機關で、朝鮮生産界の一般を知り或は商品の販賣擴張を圖らん

とする人の是非一度訪問すべき處である。

本町 は南山の麓に伸ぶ京城最般賑の街區、兩側に内地人の商厦軒を並べ、その町幅の狭き、往來の人織るが如き、大阪心齋橋筋を思ひ浮べさせる。一丁目から五丁目に亘る長い本町筋の北の端は遊廓のある新町、南の端は朝鮮銀行前の大廣場。此廣場から旭町、南大門通、長谷川町、本町の大小街路が放射狀に發して居る。又此附近には郵便局、朝鮮銀行、商業銀行、商業會議所、朝鮮ホテル等市内屈指の大建築が聳立し、街衢の美觀歐米都市の夫れにも比すべきである。

朝鮮ホテル

は客室の數八十有餘、食堂、酒場、演藝場、讀書室等の設備完整、規模の宏大東洋有數の大ホテルで、當局直營の下に内外旅客の利用を俟つて居る。ホテルの後園ローズ、ガーデンは高麗時代木寛城のあつた跡、文祿の際には浮田秀家の陣地たり、又李王殿下即位の典を擧げられた圓球壇も此所である。園は當時の遺物たる一畫樓を中央に周圍に造庭したもの夏季は納涼客のため公開して居る。ホテルから太平通の廣場に出る右に新築の府廳舎を見て左には

大漢門

ミ額した大赤門の德壽宮がある。宮はも慶運宮と稱し、故閔后の私邸であつたが、嘗て

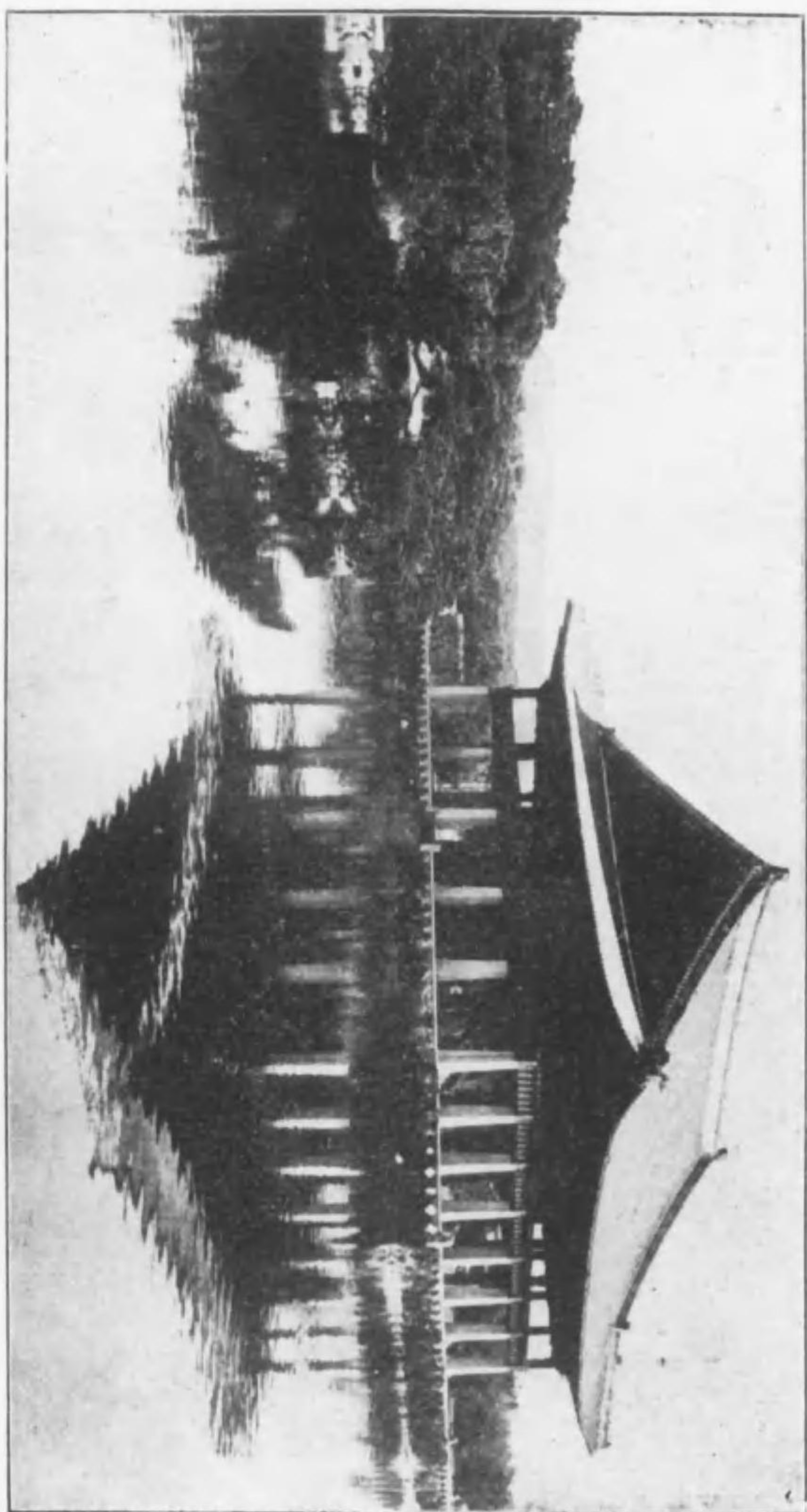
故李太王殿下露國公使館潜行の事あつてから後ち、正宮を此所に移され約九年間半島の政機發動の根源所たりしは世人のよく知るまゝである。宮内の洋風石造殿は宮殿下御來城の砌りその御旅館なごに充てられてゐる。宮の後方貞洞には英、米、露の總領事館を始め外人の住宅が多く俗に『リゲーシヨン、ストリート』と云ふ。高等法院、中樞院なごがこゝにある。太平通を進むと左に

美術品製作所

がある。金銀玉石等に朝鮮的の意匠を施し之を其陳列場に公開し、一般に販賣してゐる。此所は元李王職の所管であつたが、先年民間に拂下げられ會社組織で經營してゐる。鐘路の電車線路を横切り光化門通を行けば、法學專門學校、警官講習所、京畿道廳、遞信局、貯金管理所、朝鮮歩兵隊等兩側に建ち並び、通りの當面には石造の總督府廳舎がある。

景福宮

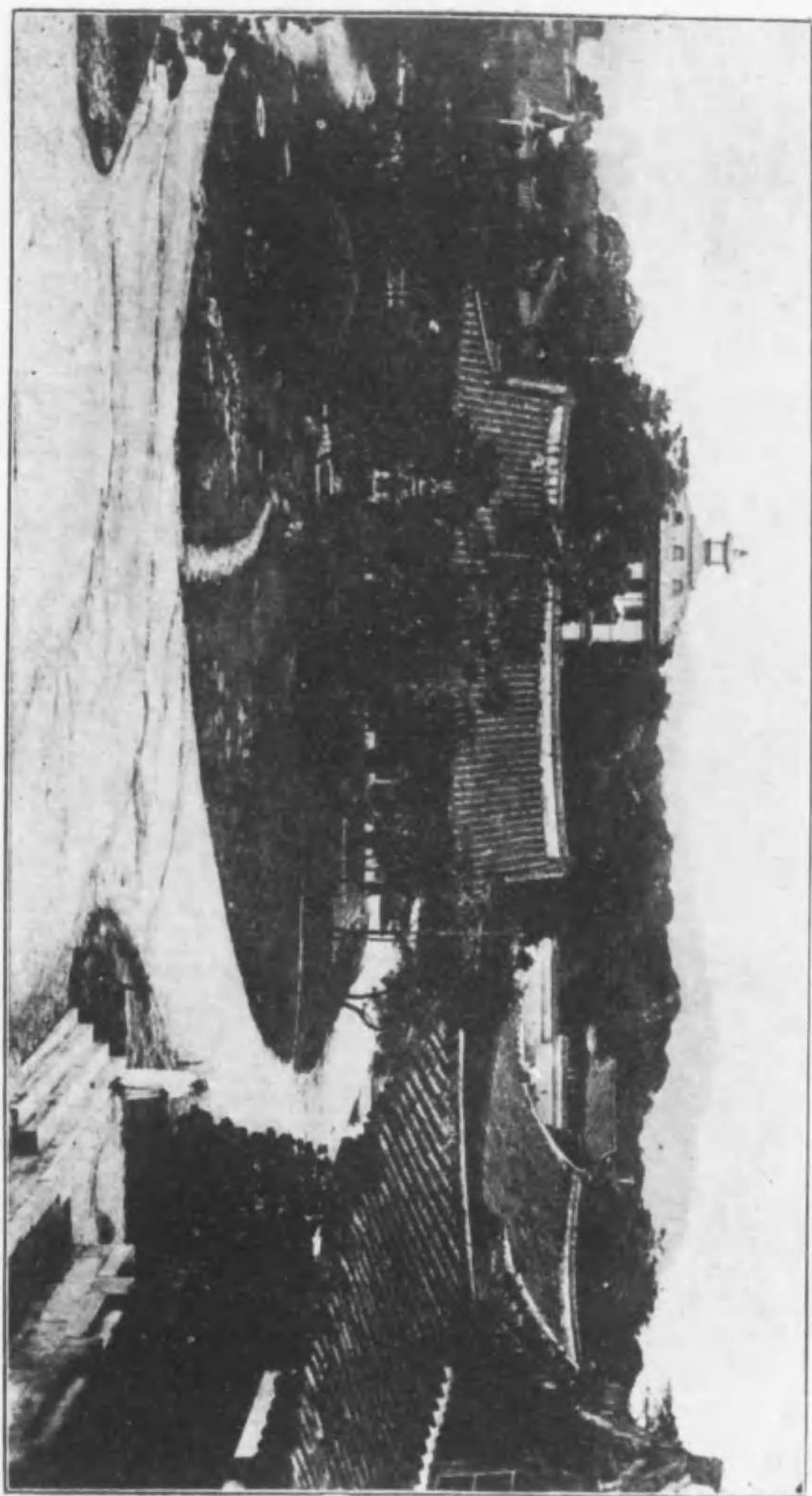
は白岳の南麓の位置し、李朝太祖の創建であるが、文祿の役に加藤、小西の先鋒の入城に先つて亂民の爲めに灰盡に歸し、以來二百年年間草萊の生茂るに委してあつたのを、六十年前攝政大院君が一世の民力を竭して再建したものである。門を這入ると花崗石で造られた壯宏美麗なる總督府廳舎が聳えてゐる。右に迂回すれば奥に博物館がある。館は階下の内壁を慶州佛國寺石



景福宮

窟庵に模し、兩袖ミ階上に三韓の發掘物、新羅の佛像、高麗の陶器、李朝に屬する繪畫、墨蹟などを陳列してゐる。館の横手には舊宮殿の大小建物が並んでゐる。中に最も堂高き大建築は主殿たりし勤政殿、昔朝親の大禮行はれた蹟を其儘に存して居る。慶會樓は東西十九間、東北十五間高さ十五尺の石柱四十八本を以て支へられた大樓臺、階上階下君臣宴會場に充られた處で、李朝末期に於ける代表的朝鮮建築の一つである。慶會樓ミ勤政殿の間の修政殿ミ云ふ宮殿には、先年大谷光瑞師の蒐集した、西藏發掘物が陳列されて居る。景福宮の見物を終え、電車で鐘路通を東へ行く。南大門通ミの交叉點に

普信閣 がある。中に在る巨鐘は高さ一丈、周圍二丈餘、今を距る四百四十餘年前李朝正祖十三年の鑄造に係り、もミ南大門の樓上に置かれて朝夕各城門に開閉の時刻を報知するに用いたものである。鐘路通は府内最盛の朝鮮街、李朝時代には官商此處に軒を並べてゐた城の迫手通である。**パコタ公園**で通つてゐる塔洞公園は普信閣の先き鐘路通にある。此所は大圓覺寺のあつた趾で、園内に名高い十三層の寒水石塔がある。塔は元の順帝から高麗忠順王に贈つたものだミ云はれて



國 慶 宮 城 京

居るが其説は確かでない。兎に角六百年近くを経た珍しい古塔で、周圍一面に佛像なごを彫刻し石質技巧共稀れなる逸品である。今その上層三基が地に取卸されて居るので、傳説に、文祿の時加藤清正が此塔を持ち歸らんとしたが、運送の不便を思ひ中止した。此外園内に在る大圓覺寺の碑も立派な藝術品である。

昌徳宮 の正門敦化門は公園から更に鐘路通を進み授恩洞の奥に在る。宮は李朝三代太宗の五年に離宮として建てられたもの、其後再度火災に罹り、今の建物は文祿役後の再建で、明治四十年以來李王殿下の居殿となつて居る。敦化門を入るに石が李王職、左に聳ゆるが仁政殿、續いて宣政殿、奥まつた所に日常の御座所たる大造殿がある。此處は普通一般に解放されてゐない。宮から引返して鐘路四丁目から左に折れ專賣局煙草工場、總督府醫院前を過ぎる。

昌慶苑 がある。此所は昌徳宮の一部で園内に李王職所管の博物館、動植物園等があり、此部分だけ一般に解放されて居る。地はもみ壽康宮と稱した宮基、門を入り正面にある明政宮は高麗末期の建物で、殿の東面して建てられて居る事、又京城最古の建築物たる事、共に考古趣味家の注意

を惹いて居る。明政宮を含む園の中央部は博物館、庭園の内點々數陳の舊殿址あり、小高い處に本館あり、新羅以來の古器物、佛像、武具、書畫等、半島古今文化の一端を窺ふに足る好資料を各棟に區分陳列して居る。動物園、植物園は博物館の左右地域を領し、孰れも汎く珍奇なる動物を蒐集して居る。松櫻の老樹林を爲す園裡、一方に熱帶植物の芳香溢る温室あれば他に猛獸の咆哮する檻あり、春の花、秋の紅葉、市民こゝを無上の行樂地として居る。但し木曜日は入場するこゝが出来ない。植物園から奥、宮殿の背後にあるは鷹峰で、丘陵道進みして老樹の緑暗く、泉水迸るこゝ怪岩奇石あり、樓閣、池亭散在して實に幽邃の境地をなして居る。名高き昌徳宮秘苑は是れであつて、此地域は特に李王職の許可を得なければ入るこゝが出来ない。

經學院 は昌慶苑前から北に約十町のこゝろにある。院は文廟を中心とした儒林の學堂であつて、廟には孔子を主座に顔子、思子、曾子、孟子等聖哲を祀つてある。朝鮮太祖の創建、建物は其後火災の爲め改築されたが歴代典祀を絶たず、今も尙毎年春秋二回舉行さる釋奠祭は朝鮮年中行事の一つとなつて居る。そして最もクラシツクな朝鮮古樂が此所に傳はつて居る。本町線電車で引

返し鐘路を東大門に向ひ次の停留場に下車、左に約十丁行くに右側に

中央試験所

がある。高等工業學校、工業學校も同一構内にある。各種工業の實習室及び製産品陳列場なき乞ふて參觀するこゝが出来る。道を引返して更に鐘路を進めば東大門の高樓がある。

城外には有名な朝鮮市場や關羽を祀る東廟がある。電車東大門にて郊外清涼里に至るものこ、右折城内の地を黄金町通に出るものこ二つに分れ、黄金町通に至れば又往十里線を分つ、其分岐點に韓國時代の練兵場訓練院がある。今は廣場となつて居るが電車通の東側は京城府設運動場となり野球場、トラック等設備は内地にも劣るこゝなく訓練院から南へ南山の北麓に向へば

樊忠壇公園

がある。往年韓國士卒の招魂場であるが、南山北麓の松翠を負ひ、溪流あり、丘岡あり、市塵に距る遠からざるに野趣掬すべきものがあるから、春秋の交市民の筈を曳き散策するものが多い。此所から一丘を越せば新町に出で、更らに大和町の奥へ南山麓に進めば、明治二十七年の頃、大島公使が韓廷の重臣と會同時局に就き商議を重ねた山莊の老人亭がある。附近南山の山脚深谿を作り、岩頭奇松の蟠屈するあり、詩趣横溢、一遊に價する。

訓練院

から電車で黄金町筋を歸途に就く。筋の四丁目日本町電車線との交叉點附近には、活動寫眞館や朝鮮芝居なきあつて、嘶子の音や繪看板の色が道行く人の心をそゝつて居る。黄金町の通は聽て南大門通と交叉する、此近傍には東洋拓殖會社、日本生命保險會社、三井物産會社、鈴木商店、第一銀行等の各支店及殖産銀行其他銀行、會社、商店の見上げる立派な建築が櫛比して居る。

郊外見物

東方

清涼里・東九陵・金谷陵・牛耳洞・南漢山

清涼里

へは東大門から電車で行く。此處は京城の東南郊を迂回してゐる京元線の清涼里驛の所在地である。此の附近道路の兩側には楊柳が緑の糸を垂れ、起伏せる丘陵には松樹繁茂し、清々しさげに清涼の名に反かない。街道に沿ひ帝國大學豫科、農業學校あり林中には清涼寺なきがある。永徽園はもご故李太王殿下の妃閔妃の陵墓であつたこゝで、俗に「王妃のお墓」で通つてゐるが、李太王殿下の薨去後其の御墓所なる金谷に改葬され、今は晋殿下が静かに眠つて居られ

る。それから奥に進めば、林業試験所があり。郊外散策地として春秋の候には杖を曳く人が多い。又街道を一里餘のころにはゴルフ、リンクがある。

東九陵 は清涼里から春川街道を進み、忘憂里の時を輪え左折十丁程の所にある。九陵山の山腹老松鬱蒼たる間に、李朝太祖以下七王二妃の墓がある。丘陵重疊、溪流は樹蔭に潺潺の音を立て頗る幽邃の境地を成してゐる。

金谷陵 は春川街道を更に二里許りの金谷邑に在る。故李太王及同妃の陵墓所在地である。東九陵金谷陵共京城からは春川行乗合自動車途中まで利用することが出来、又特に賃すれば陵前まで自動車を馳ることが出来る。

牛耳洞 は京城東小門外京元街道二里餘にある。鐵路京元線によれば倉洞驛から三十丁程の行程である。後ろに北漢山の峻峰を負ひ、奇石縦横の溪谷には潺湲の水があつて頗る景趣に富んでゐる。洪良浩氏の隠棲した所で、人外の境地であるが、洪氏が日本から移植した櫻樹が林をなして遂に櫻花の名所となり、花季には市民の衣香帽影が集り紅塵の蒼々化する、牛耳洞の手前十丁程にも

加五里云ふ櫻花の名所がある。

南漢山 は電車の終點往十里から五里許り、今の廣州邑が此南漢山であつて、京城からは乗合自動車の便がある（水標町發賃二、三〇）。山は百濟の初期の王都で、その遺跡を傳えられる城壁なきが點在してゐる。又李朝十六世仁祖が清太宗の來襲に會ひ、一時此山に遁れて四十餘日籠城の後降伏した古戰場である。山頂の西將臺は海拔千六百尺の高地、臺からは京城、龍山の市街を足下に望む。仁祖の行宮其他往時の宮殿は今郡廳、郵便局等の官公衙に其儘使用され、此地の日本旅館の入口にさへ維安椽廳云ふ古雅の額が掲げられて居る。其他駐蹕岩、顯節詞、獻陵、宣陵、靖陵、長慶寺なき由緒ある舊蹟が附近に澤山ある。

西方 孔德里・麻浦

孔德里 は麻浦行電車の央にある一村、一脈の丘陵を境に舊龍山市街を隣つて居る。丘陵は古松鬱蒼として鴉鼻畫に啼く静寂さ、此處に大院君の最初に葬られた墳墓がある。曾て大院君志を懐いて此所に山莊を結び、幽棲三十年、時々龍蛇の氣を吐き、李朝末期の天地を震撼したので著

はれて居る。

麻浦 は孔德里の先き、漢江畔に在る。漢江五港の一つで人家一千餘、朝鮮人向き日用物資の出入盛んな商業殷盛の地である。對岸は栗島の白沙連り綠柳煙り、三伏暑熱の交納涼に適し、又下流里餘の龍岩附近は風景閑雅の勝區、此邊り一帯投網、釣魚の舟遊に最も良い。

南方 龍山・漢江・鳳山公園

龍山 は京城驛から南方一帯の市街の總稱であつて、更らに舊龍山と新龍山の二區に呼び分けられて居る。京城驛前からの電車練兵場に至り二分岐する、右方の線は舊龍山の市街を貫通し漢江河岸に、直路の線は新龍山を貫き同じく河岸に達して居る。電車分岐點邊りから左方山手にかけて一帯は文祿の役加藤清正の駐陣した所、又今の陸軍倉庫の邊りは食糧米倉庫のあつた處である。舊龍山の市街は昔からの舟附場龍山津の繁昌したもの、其所には圖書印刷會社、京城電氣會社の發電所、瓦斯ドム、孝昌園、桃山遊廓などがある。新龍山は明治三十七年京義鐵道の出發點となつて以來、鐵道の諸機關、住宅等此所に置かれ、昨の一沙洲忽ち市街地化し、陸軍諸設備のある

一部と相連續するの發展を示し、今や歴史ある舊龍山の繁榮を凌駕する盛況を示して居る。此方面には軍司令部、師團及旅團司令部、歩兵第七十八、第七十九聯隊並鐵道局、鐵道工場、龍山驛、總督官邸(特種の場合に限り使用す)鐵道官舎、鐵道公園等がある。

漢江 は朝鮮五大江の一つ、新舊龍山の南郊を環流し、上流忠州、京畿の農産物、下流仁川の海の海産物を京城に搬入する朝鮮舟の水路をなして居る。新龍山河岸に人道鐵橋あり、京城釜山街道の交通に便して居る。橋から舊龍山河岸へかけて河筋は、春夏の交投網、釣魚の遊山舟や、ボートが浮び、冬は張り詰めた厚氷の面が豪快極りなきスケーティングの滑走場となる。

鳳山公園 は人道橋を渡り對岸の山丘を造園したもので、公園として設備未だ完からざるも、春櫻花の頃から夏に亘り、市民の節を曳くもの多く、山續きの漢江神社の高臺からは、南山東南麓西水庫邊りを展望し得て景色が佳い。此所に仁川水道の水源地がある。

北方 洗劍亭・天然亭・獨立門・北漢山・碧蹄館

洗劍亭 は景福宮の裏手北門から坂を北へ下るこゝ約十丁許り、新羅武烈王が高句麗の軍を破つた

古戦場の蕩春臺の傍ら、溪流が急端をなす懸崖に建てられてゐる六角堂である。李朝十五代光海君が王位を篡奪し暴戾日夜甚しかつた時、陵陽君(仁祖)が擬君廢立の事を擧げられた場所である。洗劍亭は當時義士の血を啜り劍を磨したに因んだものだ云ふ。尙此附近には白佛弘智門七間水なき見るべき所がある。

天然亭 は市内義州通を北へ數町、通の左裏手に在る明治十三年江華條約に基き、外務大丞花房公使人城し、此處に始めて日本公使館を置いた由緒ある處である。亭前に一池あり、老論の池或は古西池と云ひ、旱魃に雨を祈れば驗應ありと云はれてゐる。池中蓮花盛りの頃には頗る美觀を呈する

獨立門 は天然亭から又數丁先きに在る。門は日清の役後支那の藩屬關係を絶ち朝鮮の獨立國たるを宣揚した記念門で、往昔明使の送迎をなした迎恩門と數間を隔て並び立つて居る。此傍に元の慕華館を改め獨立館と稱した建物があつたが今撤去せられて居る。

北漢山 は京城の北に劍を立て列ねたやうな峻嶺の一脈が即ち其れである。獨立門から把撥里を経て山城の西門まで約四里、此處までは人力車で行くこゝが出来る(北門の洗劍亭より登攀する道

もある)。山は京城の鎮山で三韓時代からの歴史を有し、李朝になつてから鎮城が置かれ、今も其城壁は其儘遺つてゐる。城内溪谷の間に所々民家があり又巡查駐在所もある。山中には離宮の址、重興寺の廢址あり、城壁に沿つて上れば、車將臺、萬景臺などの望樓の址もある。山は全く花崗岩から成り岩骨稜々として峻嶺を極め、登攀には流汗の苦を嘗めねばならぬ。山頂に白雲、仁秀、國望の三峰が鼎立してゐるので別に三角山の名がある。最高峰の白雲臺は海拔二千六百尺秋季紅葉の頃が佳いので登山するものが多い。

碧蹄館 のある所は高陽邑で、義州通から四里許り道路平坦乗合自動車がある(義州通發賃一、五〇)又京義線一山驛から行けば二里餘の距離である。文祿當時の碧蹄館は建物も位置も今は變つてゐるが、門に掲げた碧蹄館と認めた大額は當時のものだといふ。文祿二年正月七日小西行長が平壤に敗れて引返すや、明將李如松は破竹の勢で南下し、廿五日には京城を距る十里の坡州まで押寄せて來た。京城の我軍は怖氣立つて進み當らうとするものがなかつた内に、小早川隆景と立花宗茂は手兵僅かに三萬五千餘を以て明の大軍を迎え戦はんとした、普通に考へて、此戦は我

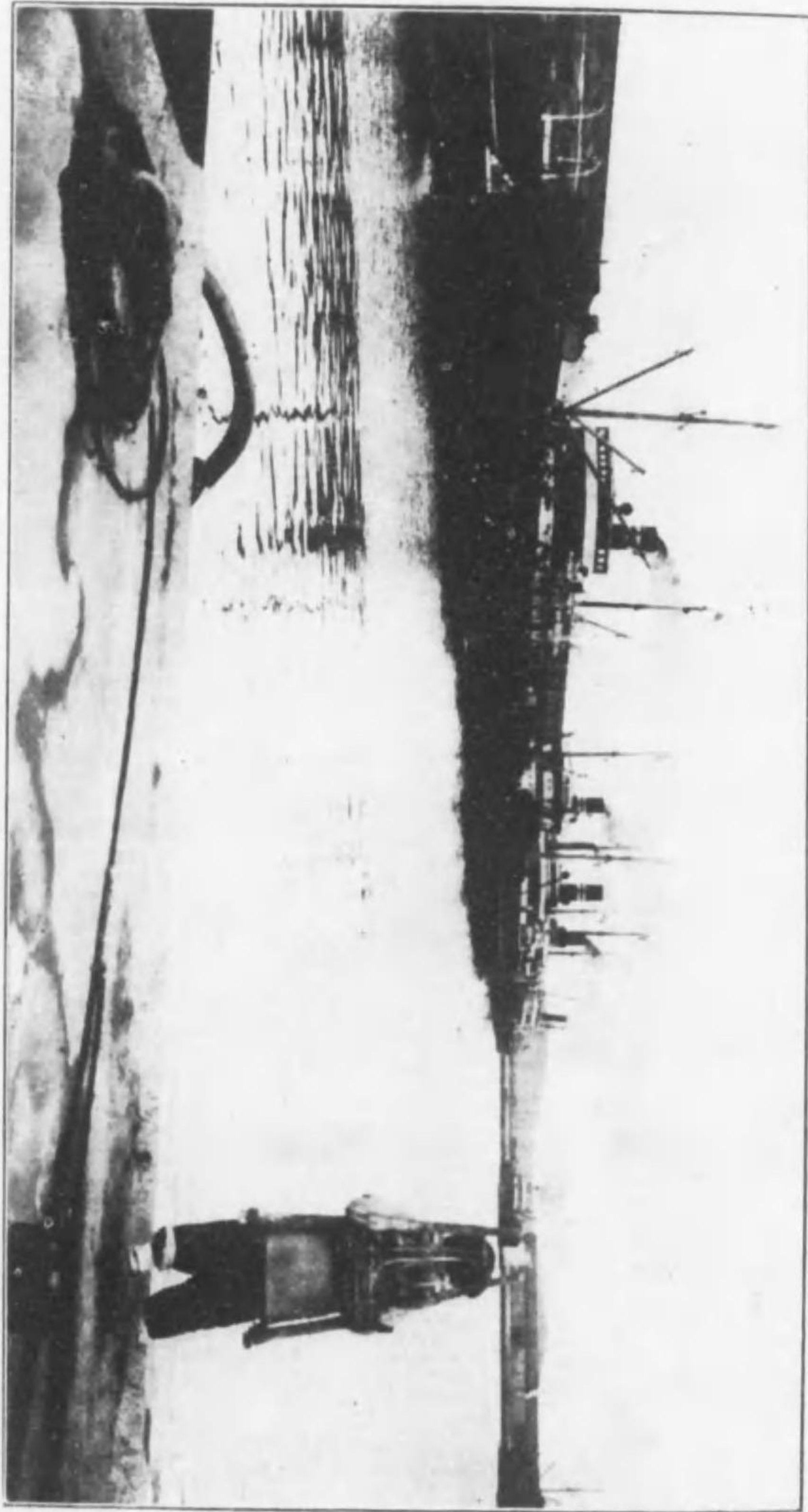
軍に勝ち目ないのは明かであつたので、諸將の内には此無謀の舉を驚くものが多かつた。廿六日未明立花宗茂は義州街道の陣屋を發した。行くところ三里彌勒院の前なる昌陵川の平野で早くも斥候衝突が始まつた。激戦五時間、必死の立花軍に明軍は遂に敗れた。追撃して來た宗茂は平野の向の丘陵礪石岨の附近の小山で一息入れた。坡州に居た李如松は手兵若干を率いて惠陰嶺を越え高陽まで來るに、圖らずも味方の退却に出會したので、之を收容しつゝ前進を續けた。小早川軍の戰場に到着したのは正午であつた、礪石岨の耕地を挟んで相對峙する丘陵が望客岨である。午後この戦はこゝを中心として行はれた。現今此附近は赭土の秃山であるが當時は虎狼が棲息してゐた程の森林で、我軍は此森に兵を伏せ、正面の軍は退却し見せて敵軍を深く誘ひ、不意に伏兵を出して敵の中堅を突撃したので明軍の狼狽は一方ではなかつた。朝來陰鬱な空は遂に雨となり、騎兵短劍の明軍は雨中の水田で行動の自由を失ひ、却て自分の軍勢を攪亂する様な結果となつた。此機に乗じて歩兵長刀の日本軍は縦横に切りまくつたのである。右翼の立花軍左翼の浮田軍も齊しく奮戦し、戦は正午から四時に亘り明軍は遂に總崩れなつて坡州さして敗走した。副將の李有

昇は戦死し、大將の李如松までが井上五郎兵衛の槍を危く免れたといふ程無慘な大敗北となつた。今碧蹄館の後丘には甲掛樹と云ふ隆景將士の休憩した址が残つてゐる此處には舊蹟保存會があつて頼めば案内の勞を取つて呉れる。

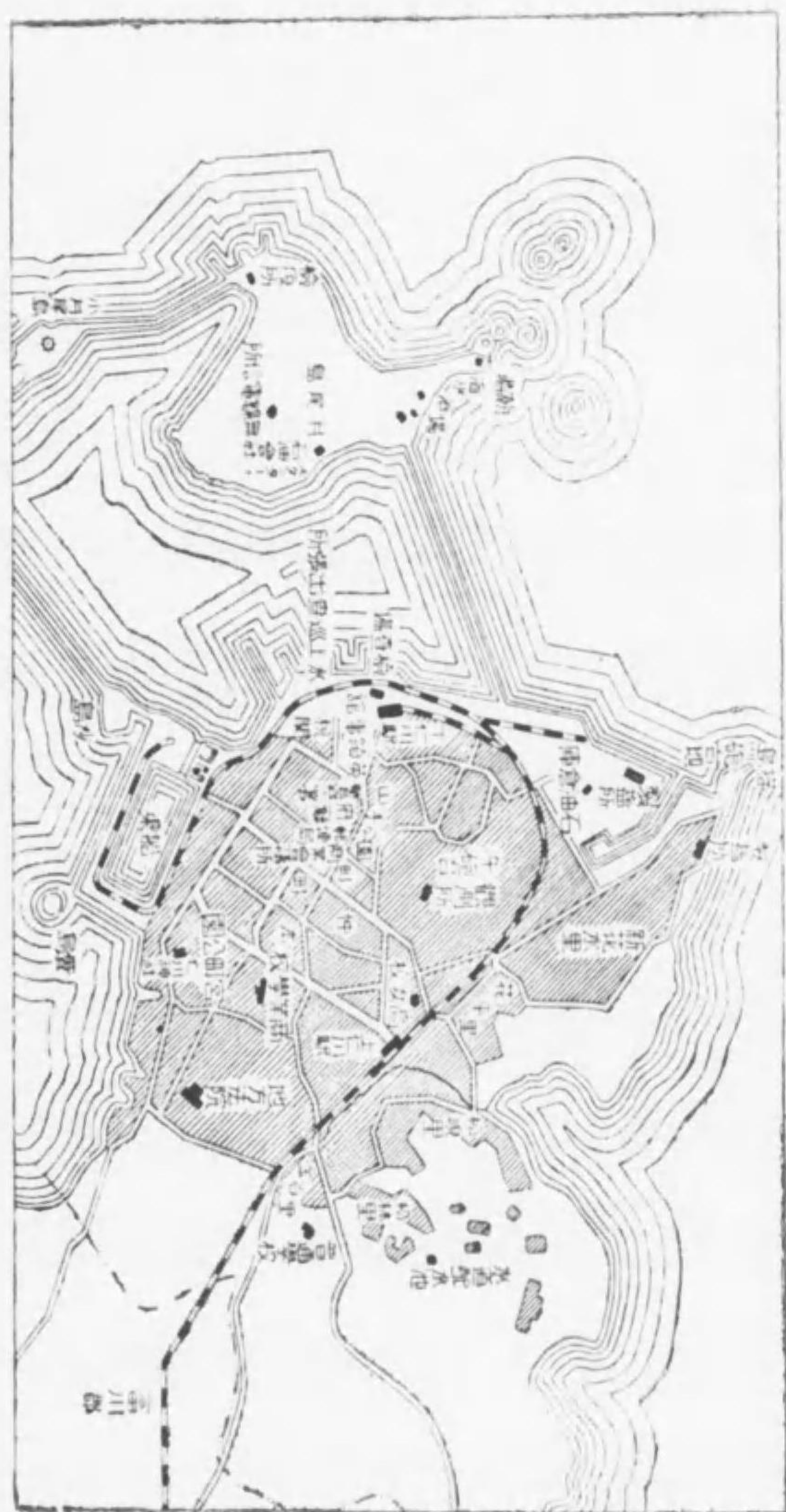
仁川

仁川は僅か五十餘年前まで 濟物浦といひ黃海岸の一小漁村に過ぎなかつた。大院君攝政時代、耶蘇教を嚴禁して信徒十二萬人の大逆教を行ひ佛國ミ事を構ふに至り、同國軍艦七隻問罪のため此地の外港へ來襲した。明治四年羊角島の一條から、米艦又問罪のため前後二回來襲し、次で同八年には我が雲揚艦砲撃事件が起つた。是れ迄辛じて鎖國主義を固持して來た朝鮮が此時初めて修交條約に調印した。其後京城に事變が起つた時花房公使の一行がこゝから韓舟に命を托して英艦に救はれたこゝもある。其翌明治十六年の一月開港場となつた。日清の役には港外豊島沖の海戦を導火線に幕が明き、大島旅團が此港から上陸し、日露の役には露艦二隻が外港で撃沈され、木越師團が又此港から上陸した。數え來れば際限もないが、斯る間に仁川は驚くばかり速なる繁榮を告げた。

仁川は釜山、元山に次げる古い開港場で、地位恰も東京ミ横濱ミの關係に似て京城の咽喉を扼してゐる。港内には月尾島が横はり其内を仁川内港と稱してゐる。島外には永宗、龍流、永峰、舞衣、



仁川開港場



仁川府路圖

信島の諸島嶼基列し自から一大灣状を形造つてゐる。此れを内港に對して外港と云つてゐる。此處は黃海を隔て、中部支那港の諸港と相對し、地形上屈角な位置を占めてゐるので、對支貿易は半島開港場中第一位を占めてゐる。

仁川は三方に海を受け、丘陵に倚て市街を形成し、街路は弧形横線を劃し狹長に發達し、縦線街路は甚だしき急勾配で海岸に達してゐるので、海上より見る市街は此上なく美しい。海岸線に沿ふ市街には貿易商多く、本町通並に宮町附近は此地繁華の中心である。又停車場に近き支那町の一廓は異つた色彩をもつて榮えてゐる。

人口 約五六、三〇〇餘（内地人一二、〇〇〇。朝鮮人四一、五〇〇。外國人二、八〇〇）

官衙・公署・銀行・會社

府廳・地方法院支廳・稅關・觀測所・逓信局海事出張所・郵便局・警察署・檢疫所・中華民國領事館・朝鮮銀行支店・殖産銀行支店・商業銀行支店・朝鮮郵船會社支店・大阪商船會社支店・三井物産會社出張所等

仁川の交通

仁川京城間汽車約一時間にして達し一日十二回約一時間毎に運轉してゐる。

仁川芝罘大連青島線、釜山上海青島仁川線、新義州仁川内地各港線、仁川木浦線、仁川鎮南浦線、其他近海を定期運航するもの。

乗合自動車は仁川驛月尾島間(十五錢)、杜岬仁川驛と市街間(乗合自動車拾錢)

各國公園

は嘗て居留地會の施設したもので、市街の背景をなす丘陵の上にある。仁川驛から數丁山手町にあるから山手公園とも云ふ。丘上からは港や市街の全景が眺められ、月尾島、小月尾島の彼方には永宗、龍流、舞衣の諸島を望み眺望に好適の臺地をなして居る。仁川驛から市内繁華の中心本町宮町を通りて約十五町に宮町公園がある。別に

仁川公園

とも云ひ又各國公園に對して日本公園とも呼ぶ。園内には大神宮、金刀比羅神社、天満宮等がある。公園から海岸に降り數丁にして

仁川船渠

がある。仁川港の最も憂ふる所は海潮干満の差三十呎に達する一事で、内港は全く大船の碇泊に適せず又外港は陸上との距離遠きを缺點とされてゐたが、先年市街前面の干潟を開鑿し開門式の大築港を完成した。船渠の長さ二百五十間、幅百二十間、最少水深二十七尺餘、西面

する九十間の開門壁に二個の鐵製開門を附し、満潮の時は門を閉いて汽船を出入せしめ、干潮の時は門を閉じて渠内に海水を保つ設備で、船渠の三面には鐵道引込線を敷設して荷扱に便してゐる、本船渠は約七年の星霜に五百六十六萬餘圓の工費で、大正七年十一月竣成したものである。

月尾島

は仁川驛の裏手から長さ九丁の築堤で陸地と接続されてゐる。南方には八尾、豊島海戦の跡を遠望し、露艦「コレーツ」「ワリヤーク」の爆沈の跡を近くに瞰下する。島内を一週する道路は市塵をはなれ空氣清淨、逍遙散策には最も好適の地である。道路の兩側には櫻樹を栽植してあるので花の頃には京城邊からの來遊者で賑ふ。又その濱汀は海水浴場に適するので夏期には脱衣場、休憩所が設備される島の北端には仁川月尾島遊園株式會社の經營するホテル、貸別荘などがある。

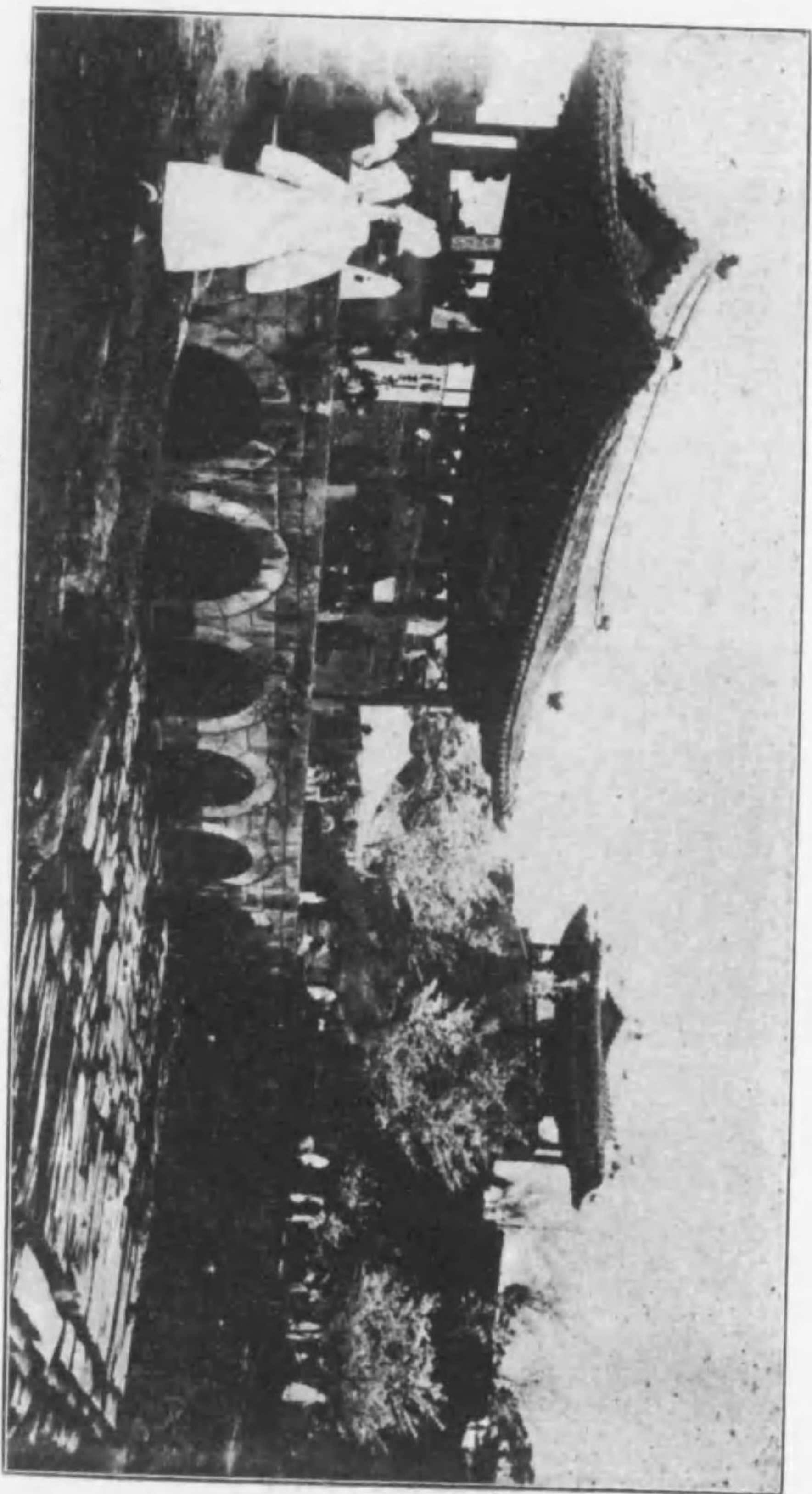
潮湯

は月尾島の右端小高い岡の上に立てられた堂々たる美術的建築の洋館である。此は滿鐵會社により設けられたもので、内部の設備には、洋館階下に男女の兩大浴槽あり絶えず潮湯を噴出せしめ、階上は休憩及娛樂室に充て、舞臺や賣店などが設けてある。洋館の裏手には一大水泳プー

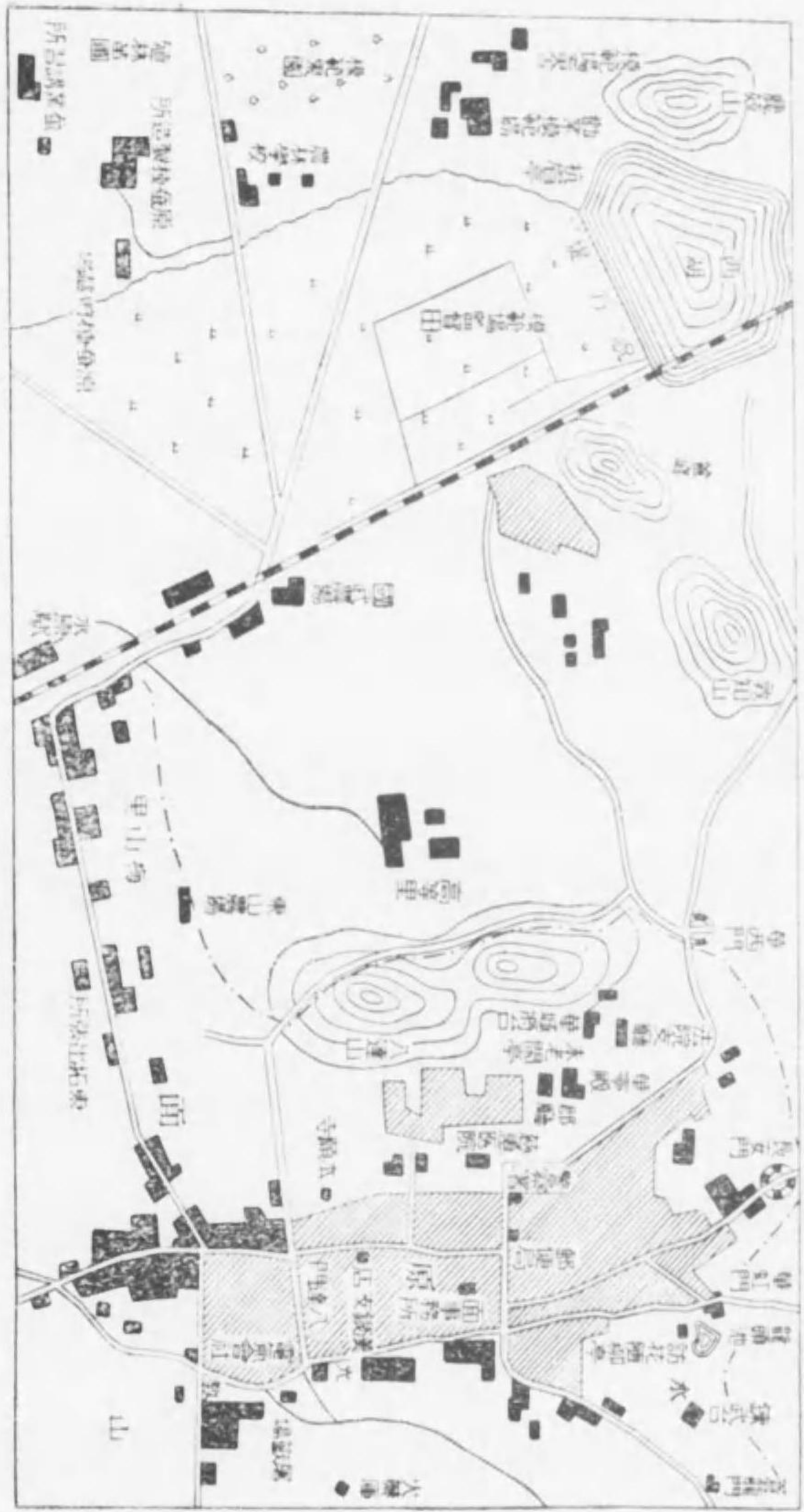
ルがあり、右側海岸の崖に臨みては純日本式の貸間敷室あり、又敷室の家族浴槽が設けられて居る。熱夏の季、京仁市民の月尾島に遊ぶもの多き、實に此潮湯あるが爲めである。

江華島 は漢江の河口に横はる周圍約三里の島、仁川から毎日汽船の便がある（汽船賃三等五〇、二等一、四〇）。往時防禦使を置かれた所で、明治八年雲揚艦砲撃されたのは此處の砲臺からであった。海岸は斷崖絶壁をなし舊砲臺の蹟は今尙残つてゐる。島の主邑江華は昔江都を稱し高麗の高祖が蒙古の兵禍を避けて一時此處に首府を置いたことがある。邑の附近二三里の山間には高麗時代の弘陵、坤陵、碩陵等の陵墓及び傳燈寺、積石寺等があり、又邑南四里の摩尼山上には大古檀君が天を祭つたに傳えられる、塹城壇の古跡なきがある。

彌鄒忽城址 は靉驛の次驛朱安驛の南方二十六丁、官廳里附近の文鶴山上にある。今を去る一千九百年前（垂仁天皇十二年）高句麗王朱蒙の二子沸流、濫祚の兄弟が相携えて扶餘から來り、弟濫祚は慰禮城に據つて百濟の基を開き、兄沸流は此處を本據と定めたが、十濕水賊安居に堪えず此地で失意のうちに世を去つた所である。



花 標 の 亭 柳 隨 花 訪 原 水



水原略圖

水原

水原は京城から汽車一時間餘りで達する。南に鬱然たる八達山が立ち、東北には光教山脈が起伏し、高さ二十餘尺の城壁が市街を圍み、東西南北の四大門が開いてゐる。城壁は李朝正祖の甲寅に工を起し、三年の日子を費し竣成したもので、其延長は一萬三千二百尺を算してゐる。市街の郊外には松林が續き又湖や流れに富んでゐるので、昔から樹の都、水の都と云はれてゐる位半島には稀れな景色の佳い土地である。此地には正祖の華城址、華寧殿、西將臺、練武臺、訪花隨柳亭等の遺跡を存してゐる。城外の驛から邑内までは殆んど人家續きであるが其南口の八達門まで約二十町ある。

人口 約一、七四〇餘（内地人一、六〇〇。朝鮮人一〇、一〇〇。外國人四〇）
官衙・公署・學校

郡廳・法院支廳・郵便局・慈惠醫院・勸業模範場・蠶業講習所・蠶業試驗所・水原牧場・高等農林學校
東洋拓殖會社出張所・東山農場・國武農場其他

旅館 山本旅館・華城旅館(驛前)、青水旅館・山陽旅館(城内)
車馬 驛邑内間 乗合自動車三十錢、人力車三十五錢

八達門 は驛から直路二十町、水原城壁の南口である。門は二層樓造りで、樓上からは邑内の全景が見渡される。門から邑内へ約五町許り左に折れると、八達山の綠翠を背景として一樓門が立つてゐる。これは正祖王の建てた

行宮 の跡で城壁や四門と共に築造されたものである。正祖王の父君の陵墓を華山(水原より二里)に移し、その陵墓に近き地に遷都を企て此景勝の水原を撰んだが、城壁、官闕の竣成した頃には不幸二豎の冒すところとなり殞せられた。今は慈惠醫院に充てられてゐる。行宮から右に折れると**華寧殿**がある。正祖王が華山に在る父君の陵墓を一時移し祀られたところで、境内には一帯に芍薬が植付けられてゐる。行宮から華寧殿にかけ一帯抱拱の老松茂り、春はまたその叢翠の内に吉野櫻の艶色を交えて美しい。八達山の頂きには

華城將臺 がある。昔の望樓の跡でこゝからは水原の近郊は指呼の間にある。今掲げてある華城

將臺の扁額は正祖王の親筆である。山を降り邑内を横ぎり光教川に沿ふ市場の中を數町行くに**華虹門**に達する。長安門から蒼龍門に亘る城壁が川を横ぎる所に七個の水門を設け、其上に樓閣を架したのが華虹門である。先年洪水のために壊されてゐるが近く重修のこゝになつてゐる。

訪花隨柳亭 は華虹門に隣る丘上にある。八達山の綠翠滴らんとし、臺下の龍頭池には亭の朱欄が映り、左方蒼松の梢から長安門の薨が高く光る。此附近は水原勝境の眞隨とも云ふべき處である。亭から南へ數町練武臺を見て更に二十町許りで城壁の一部に

烽爐臺 の窟が見える。之は昔の警報機關で、煉瓦で積上げた煙突様の窟が五個並び立ち、これから揚る煙の條數に依り色々の事情が次ぎから次ぎへ京城まで報ぜられたのである。此處から東に行けば城壁の東口に當り蒼龍門がある。

西湖 は驛から西北數町、綠濃き萬祝の長堤に堰かれた貯水池で、李朝正祖が農民のため建設したものであるが、何時か西湖と呼ばれる様になつた。松並木の先き溢水堰の丘上には杭眉亭の建物が見える。之は風雅な人が支那の西湖に擬した趣好である。丘の裏に勸業模範場がある。

勸業模範場

は枯渴せる半島農産界の改良指導のために總督府が施設したものである。播種及移植、土壤の研究、施肥及病害の驅除方法、特用作物、蠶業、畜産其他一般農業に關する諸般の設備は見學すべき價值が多い。朝鮮内各地に點在する支場には園藝、棉作、牧馬、牧羊などの各事業をも網羅してゐる。附屬として場内には女子蠶業講習所及び蠶業試験所があり、附近には試作田及養魚場（西湖）がある。又高等農林學校も此所にある。春は此附近一帯の吉野櫻を賞する京城からの花見客で賑ふ。

華山

は驛から南に二里の距離にあるも次驛併店からは數丁である。李朝二十一世の世子は父王の怒りをかひ殺された。世子の子の正祖が位に即くに及び薄命なる父君の靈を慰めるため、父君が平素愛せし水原に其の墓を移した。華山にある健陵が之れである。王は自ら周圍四里の陵域を定め之れに植樹の計を立て、又其子の純祖が即位後父王の志を紹ぎ之を完成した。又正祖の陵墓陸陵の位置をも此林中に定めたのである。尙來こゝに百二十有餘年、亭々たる抱拱の松樹が鬱蒼して全山を蔽ひ、半島稀に見る好山林を成して居る。林中に龍珠寺がある。

成 歡

明治二十七八年の役、大島旅團が清軍を撃破し同戰誌の光輝ある第一頁を飾つた成歡の役の古戰場は、京城から汽車約二時間で達する京釜線成歡驛の附近にある。驛前の村落は當時の成歡邑、邑の後ろに連亘する丘陵は清軍の砲列を敷いた月峰山、又清軍の上陸地點たりし屯浦は西へ三里半の牙山灣に在る。驛は今稷山金鑛への下車驛として知らるる外、特に一般の注意を惹いて居ないが、戰蹟を弔ひかた／＼程近き成歡牧場邊りの散策は、京城から日歸り行程に最も良い遠足地である。

松崎大尉忠魂碑

は驛前の村から北へ二町許り月峰山の一角に在る。明治二十七年七月四千の清兵は牙山灣に上陸した、我が大島旅團は仁川に上陸し京城に繰込んだ。首鼠兩端を持してゐた韓廷も此形勢に動されて態度が決定し、追が智謀に長けた清公使袁世凱も京城に駐つて居られぬ破目となり天津に還るこゝになつた。斯くて戰機は熟し清軍は月峰山を中心に砲壘や散兵濠を築く一方、京城から南下した大島旅團は七月二十八日素砂里に着き攻撃を開始した。素砂里の南には

泥土深い安渡川が流れて居る（前驛平澤の東一里、今此處をトし記念碑が建てられた）。その渡渉戦が夜陰に行はれた。松崎大尉は其渡渉戦で。同戦役最初の犠牲者となつたのである。戦は翌朝まで續き午前八時頃敵の中心陣地たる月峰山占領に依り終つた。戦後大尉等の忠魂を慰むために建てられたが此碑である。丘上から見渡す坦々たる平野は當時攻撃方の我軍が如何に苦戦を嘗めたかを思はせる。丘の下から西南二十丁許りに

成歡赤星農場

がある。其途に見る岡や小川は皆往年我が勇士の血を染めた古戦場である。廣い牧場の内には道路が縦横に開かれ、右側に牧馬場、左側に牧牛場、中央の奥まつた丘の上には場主赤星氏の別荘が場を見下し建つて居る。純朝鮮式の御殿風大建築、里人は呼んで赤星御殿云つて居る。本牧場の主要事業たる牧馬場は蒙古馬の改良を目的とし、營利の外にたち現に二十餘頭の優良馬匹を養つて居る。牧場では趣味の來訪者を喜んで迎えてくれる。

稷山金鑛

は驛の東南三里許りに在る。稷山金鑛株式會社の經營に係る朝鮮有数の砂金鑛で、年産額約百六十貫、鑛區には電気探雄機を据付け、驛附近に 銑鑛所を設けて居る。金鑛への途央

ば稷山邑の附近には、上代百濟の都したと傳ふ、城山の城址がある。

開城

新羅積衰の餘、漸く瓦解に傾くに方り、其王族たりし弓裔は江原道の鐵原に據つて國を泰封ミ號し、又甄萱は全羅北道の全州に據り國を後百濟ミ號し、兩雄覇を争ふこと殆ど二十餘年に及んだ。時に高麗の太祖王健は弓裔の裨將から身を起し、寛厚の徳を以て衆心を得、弓裔の後を襲ひ位に即き、その故郷松都（開城）に都を定め、終に甄萱を滅し新羅を併呑し、半島統一の大業を完成した（我紀元一千五百九十六年）。爾來高麗の王位相繼ぐこと三十二世、四百四十餘年、此間王都はいつも開城に置かれたのである。高麗亡び李朝起り、半島の首都京城に移りてこゝに五百四十餘年、曾て佛教藝術の燦爛たる文化を誇つた古都も、たゞ自然の荒廢に委せ往時の盛觀見るに由なく、僅に高麗夢の開城のみ昔ながらの繁盛を保つて居る。

人口 約四六、三五〇餘。内地人一、五〇〇。朝鮮人四四、七五〇、外國人一〇〇。

官衙・公署・其他

郡廳・地方法院支廳・專賣局出張所・警察署・刑務所支所・郵便局・朝鮮殖産銀行支店・漢城銀行支店

京城電氣會社支店

旅館 開和館（西本町）、開城旅館（大和町）、岩見旅館（大手町）

車馬 自動車 一時間 五圓

人力車 一時間七十錢

同 一時間七十錢

同 一時間八十錢

同 一時間九十錢

同 一時間一百錢

同 一時間一百一十錢

同 一時間一百二十錢

同 一時間一百三十錢

同 一時間一百四十錢

同 一時間一百五十錢

同 一時間一百六十錢

同 一時間一百七十錢

同 一時間一百八十錢

同 一時間一百九十錢

同 一時間二百錢

同 一時間二百一十錢

同 一時間二百二十錢

同 一時間二百三十錢

同 一時間二百四十錢

同 一時間二百五十錢

同 一時間二百六十錢

同 一時間二百七十錢

同 一時間二百八十錢

同 一時間二百九十錢

同 一時間三百錢

同 一時間三百一十錢

同 一時間三百二十錢

同 一時間三百三十錢

同 一時間三百四十錢

同 一時間三百五十錢

同 一時間三百六十錢

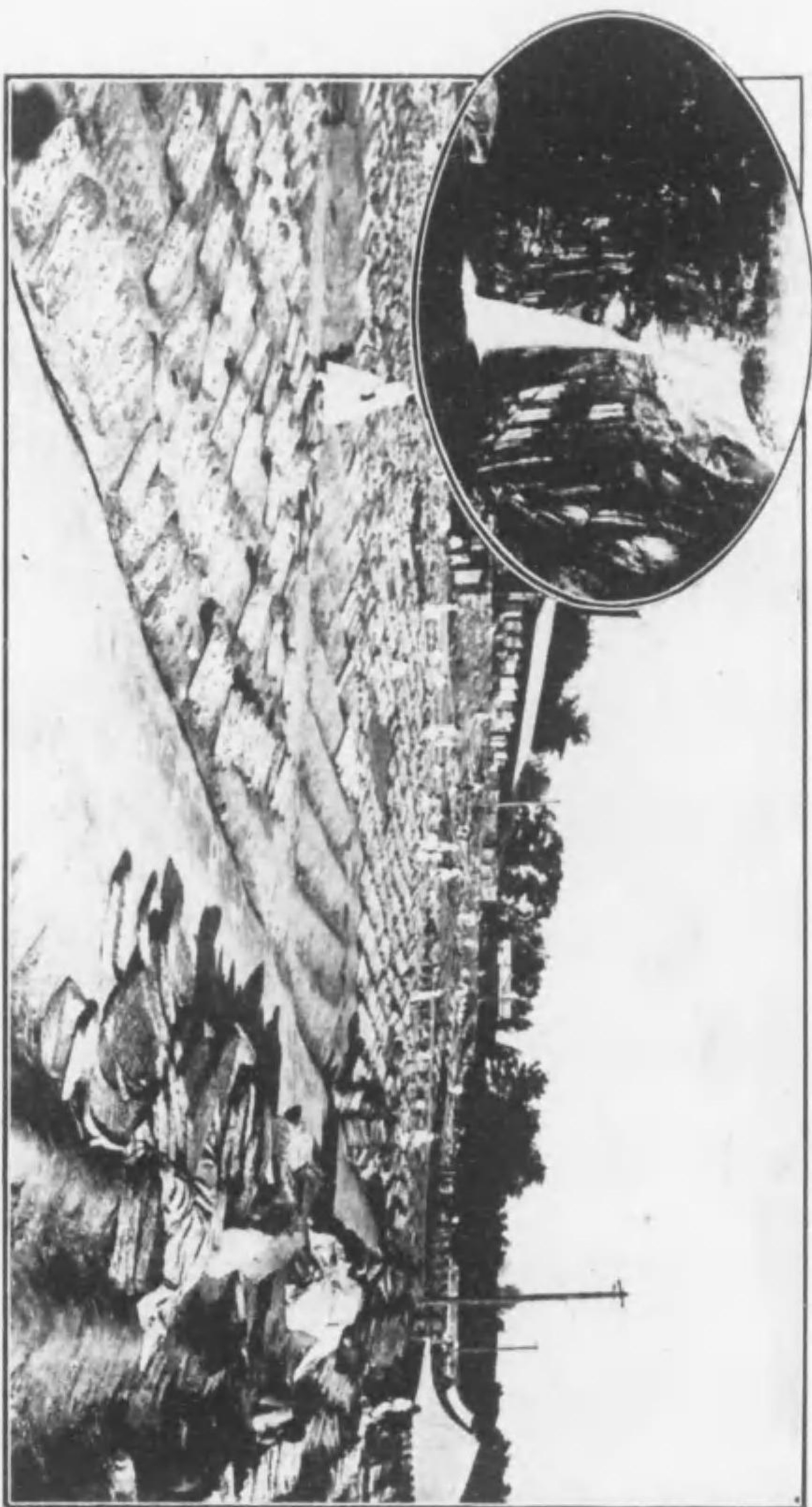
同 一時間三百七十錢

京城から汽車二時間許りで開城に達す。停車場は舊城壁の西南城外の地にあり、市街はその南數丁、舊城門南門樓を中心に城内、城外の地に相央ばし展開して居る。停車場を出づれば鐵道公園の丘岡道路に沿ひ右側に續く、此所は鐵道用地の一部を開き造庭なしたもので、開城に於ける唯一の公園地である。園内數千株の桃櫻が植付けてあるので、花季は花影模糊として城壁にかゝり頗る古雅の景趣を現出する。起伏する丘陵の裡、泉池あり叢林あり、運動場あり、茶亭あり、一日の遊に價するを以て春秋の交には京城邊りから節を曳く客が多い。公園に隣り專賣局出張所がある。所は開城の特産物高麗蔘の製造工場で、政府の專賣に係る紅蔘は此所で製造され、三井物産會社の手を経て主として支那に輸出せらるゝ。最近の年産額參萬六千餘斤、

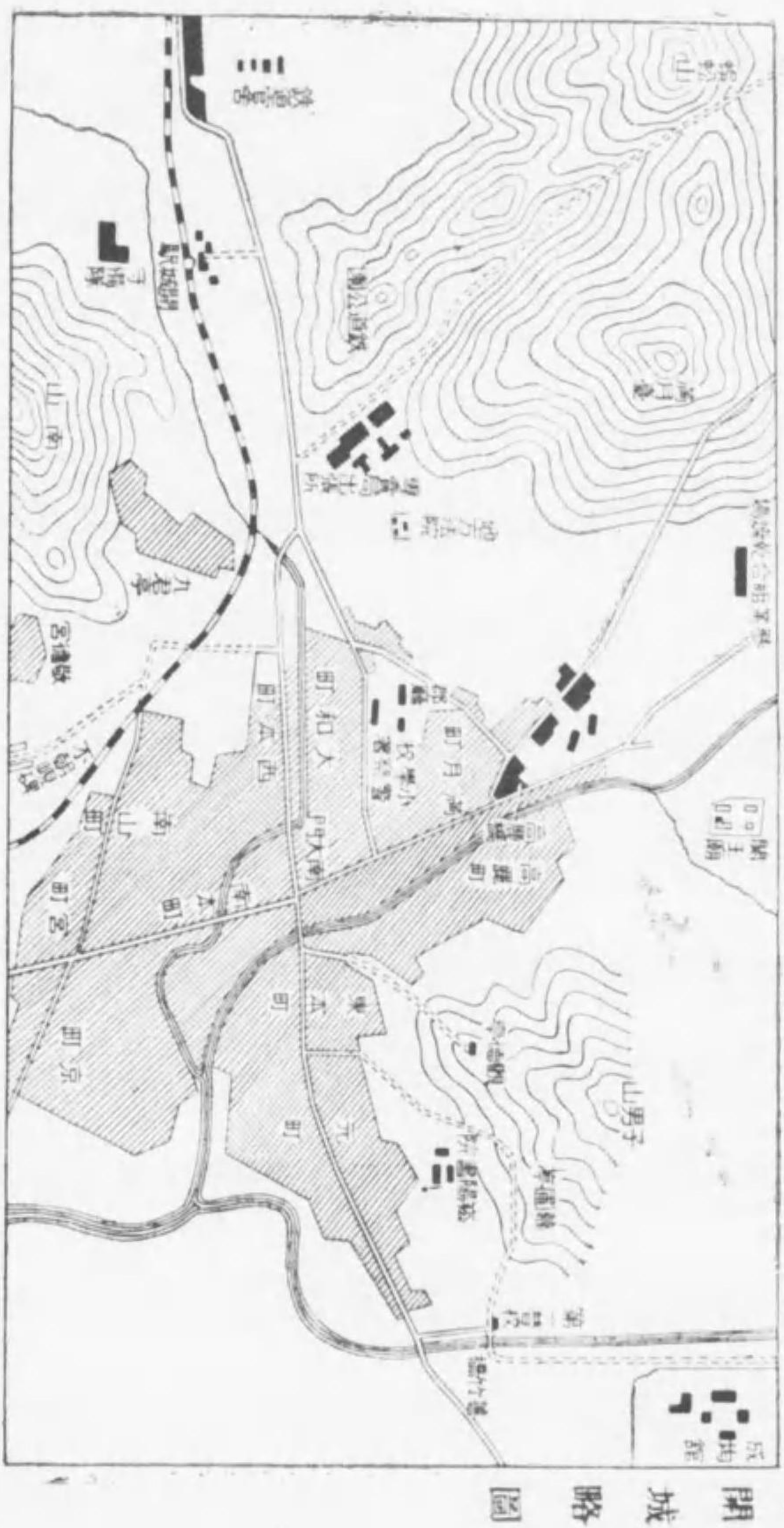
價格約二百萬圓、其品質の優良なる又市價の尊き、世界各地の産根に冠越し一斤よく金二百數十圓するものが尠くない。場内は乞ふて參觀することが出来る。本所で製造する紅蔘の外に市内には民營の白蔘製造工場がある。此所から開城内地人街の中心たる大和町を過ぎ

南門樓 に行く。市街が門外に開展した爲め今は市街の中心部に聳えて居る。門は李朝太祖の卽位三年の建造で京城の南大門より二年古いものである。樓上には朝鮮名鐘の一なる大梵鐘が置かれてある。約六百年前元時代の鑄造に係り周圍の圖案模様が頗る藝術味に富んで居る。

善竹橋 は南門樓から十町餘、驛から二十五町の郊外に在る。高麗の末期武臣の權勢まさに社稷を倒さんとする形勢を示す時、儒臣の中心勢力たる鄭夢周が、武臣の棟梁李成桂の病氣見舞に行つた歸途、李氏一味のため暗殺に遭ふた處である。石橋の上の一斑痕は、鄭の碧血が今尙ほ消えないのだと傳えられてゐる。其附近に鄭氏の事蹟を刻した二基の碑を納めた碑園がある。一基は約二百年前英祖により、他の一基は五十餘年前故李太王により建てられたものである。碑園の背後一帯は園を爲し、慕圃亭の建物や茶亭などがある。更らに園から丘陵傳ひに虎亭、崧陽書院、觀



線乾日天蔘人(下) 布澤淵村城開(上)



徳亭なき名所を経て南門樓に出る道は、徒歩の遊覧客に勧めたい好い遊覧路である。

穆清殿 は李成桂の潜邸址で、善竹橋から數丁先き田圃の中に見える建物である。舊建物は文祿の際兵火に罹つたが再建の上李成桂の畫像を安置奉祀し、その一部を恩賜授産場に充てゝ居る。鄭夢周が遭難の時、李成桂を尋ねた云ふ邸は此穆清殿であつた。

満月臺 は高麗王宮址である。南門樓からすれば北本町を真直ぐに約十五町、善竹橋から別路を走れば約二十五町市街北郊を迂回して行く。臺は松嶽山を負ひ左右に溪流を控え、五十尺の高臺に南面して居る。正面の石階の右側には茶亭の陳列館があり、館内には高麗朝の遺物が蒐められてある。階段を上るこゝの廣場に樓門や殿閣の礎石整然と現存し、其昔數十の玉樓金殿が聳を聳ねた壯觀を思ひ浮べさして居る。此宮殿は高麗末期賊亂に焚かれて以來再建を見ず、荒廢のまゝに委して居るのである。五百年前榮華の場所も、恚した荒寒たる光景に化して居るのを見て、有爲轉變の定法を泌々と感じさせられる。

彩霞洞 は市街の北部松嶽山麓の景勝地で、満月臺から行けば關王廟を途中に見て行く。停車場か

ら此處迄は一里位ある。此附近一帯幽邃の境地をなし、殊に秋の紅葉を栗拾ひで名高い。尙附近には扶山洞、彩霞洞をさの勝地がある。

満月臺、彩霞洞の見物を終へ、市街の南門樓まで引返し、南本町の通を敬徳宮に向ふ。

敬徳宮 は南門樓から南へ十三町、鐵道線路の向側にある。これも李成桂の潛邸であつて元は楸洞宮と稱してゐた。李成桂即位三年都は京城に遷されたが、二代定祖に至り又一時開城に遷都した時此宮は其宮闕になつたといふ。建物は文祿の兵燹で烏有に歸したが、孝宗の時石壁を築いて舊基を保存されたものである。宮の後ろ南山の麓には反求亭がある。又其東寄街道には不朝峴といふ古蹟がある。高麗の重臣等七十二人が二君に見えずと言つて此峴から松都を立退いたと傳えられてゐる。開城市内の見物後近郊の古蹟を尋ねる道の順序として先づ第一に訪ふべきは、太祖の陵墓**顯陵**である。地は驛から西へ一里弱、中西面太祖陵洞にある。此地は僧道説が地を卜し太祖の壽陵と定めた處で、境内鬱蒼たる老松枝を交へ、神殿の氣自ら溢るゝものがある。太祖の晩年遺命して王氏墳墓となしたので、高麗歴代の陵は多く此附近に多い。

玄陵 は顯陵から山越えて約半里、別路驛から至れば約二里、又次驛土城から行けば最も近くして約半里、中西面麗陵里の奥地鳳鳴山の中腹に在る。王と王妃の墳塚が二個並び石獸、文武兩班、燈なき陵墓としての様式が殆ど完全に備はつて居る。蓋し現在開城附近に在る高麗遺物中最も代表的の石の藝術品を見んとする人は、此所までは是非遊覽の足を伸べねばならぬ。

朴淵瀑布 は天磨山の麓に在り別に山城瀑布とも云ふ。高さ三十尺鐘踏として巖壁にかゝつて居る附近は奇岩怪石重疊欽立し松柏楓の樹木の配合亦趣きがある。驛から六里、自動車の便がある。瀑布の上崖を望めば雅趣ある樓門が立つて居る。之は

大興山城 の北門であつて、往時高麗朝廷の離宮が置かれた鎮城址である。北門から登るに觀音寺藥水、萬景岱の名勝を経て大興寺に達する。昔は巨利であつた云ふが、今は舊行宮の建物を利用し、本堂に充て寺院の面目を存するに過ぎない。此附近一帯山奥の氣分がみなぎつて居る。以上一般に開城の舊蹟として知らるゝ處以外、東方二里嶺南面玄化里に巨利玄化寺の遺蹟を訪ひ歸途山越えに華藏寺に詣ずる順路は、又開城舊蹟巡覽の興味ある一日程である。

京城附近の温泉

京城附近には次の温泉があり京城驛から連絡二割引往復切符が発賣されて居る。
 温泉温泉……天安から京南鐵道三十分にして達する。
 旅館 温泉館、廣陽館、石田旅館、泉旅館等。
 儒城温泉……大田から自動車三十分にして達する。
 旅館 鳳鳴館(新温泉場)、勝利館(舊温泉場)等。
 信川温泉……沙里院から輕便鐵道二時間にして達する。
 旅館 温泉ホテル、根本旅館、大黒屋等。

朝鮮總督府鐵道局

(昭和二年版)

鮮滿案内所

下關驛前
 大阪堺筋瓦町
 東京丸ビル内

運輸事務所

釜山驛構内
 大田驛構内
 龍山驛構内
 平壤驛構内

【朝鮮印刷會社納】

京城

原水川仁城開



局道鐵府督總鮮朝

終